

禁煙外来後の再喫煙防止策 ～フェイスブックを用いた患者および医療者グループによるサポートの混合研究法による解析～

演者：総合診療科 一瀬直日、看護部 木下磨貴子

【背景】先進国における喫煙率は低下傾向だが、日本では 17.7% (2016 年)であり、2022 年までの目標 12%にほど遠い。また喫煙関連死は 5 人に 1 人と社会的に大きな問題である。米国保健福祉局は、禁煙成功に向けた電話や電子メールによるサポートには、実践的カウンセリングとソーシャルサポートが有効だと報告している。再喫煙のほとんどが禁煙後 1 年以内におきるため、世界的にも再喫煙防止が大きな課題であり、当院でも同様の傾向がみられる。

【目的】フェイスブック (FB) を用いた患者医療者による自助グループを構築し①禁煙外来終了後 1 年の禁煙維持率を評価②禁煙維持あるいは再喫煙のリスクとなるコミュニケーションパターンを見出す。

【研究方法】Single-case holistic design を用いた混合研究法ケーススタディ。2018 年 4 月～2019 年 5 月に、当院禁煙外来を予約受診したスマートフォンを有する 20～69 歳の患者を対象。禁煙サポートを目的として独自に構築した FB ページに、参加希望した禁煙外来受診患者および禁煙外来を運営している総合診療科医師 3 名と看護師が加入し、禁煙外来終了後のソーシャルサポートを行った。本研究は赤穂市民病院倫理委員会で承認された (AkoHospital2017-0021)。研究参加の同意は文書への説明をうけ本人が署名し、同意の撤回はいつでも可能とした。禁煙の確認には、本人への聞き取り及び呼気 CO 検査にて行った。理論的枠組みには行動変容ステージモデル(Transtheoretical theory)を用いた。量的データは、年齢、性別、自信度、FTND、禁煙維持期間、FB への投稿数を収集分析した。質的データは、投稿コメント、投稿絵文字を用いた。コーディングは、TTM に基づいた演繹的コーディングおよび生データに基づいた帰納的コーディングを、独立した 2 名の研究者で施行した。解析は、絵文字も内容分析によりテキスト文字との関連性を調査し、生成されたコードとカテゴリーを頻度分析した。また禁煙成功者と失敗者のデータを MAXMAP を使用し視覚的比較した。解析には MAXQDA2018®を使用した。

【結果】禁煙外来受診者 13 名のうち、9 名が候補となり、そのうち 3 名が FB でのソーシャルサポートに参加した。FB 参加者 3 名と非参加者 6 名の量的データに差はみられなかった。FB 参加 3 名のうち、1 名が禁煙成功し 2 名が失敗 (各 1 ヶ月後、2 ヶ月後) した。この 3 名の間の量的データにも大きな差はみられなかった。質的データから 11 のコードが抽出され TTM の概念モデル (関係性の支援、自己再評価、自己解放) に分類された。コードより生成されたカテゴリーをジョイントディスプレイ分析し MAXMAP で比較した。禁煙維持を確固するのは「仲間への励ましの言葉の繰り返し」、再喫煙の兆候は「禁煙維持への心配」を「仲間への励ましの言葉」と並行して投稿する矛盾した状態であることが判明した。

【結論】FB を用いたソーシャルサポートにより、禁煙外来終了後の 1 年禁煙維持率は 33%だった。禁煙維持を示すコメントは「仲間への励ましの言葉の繰り返し」であり、再喫煙の兆候は「仲間への励ましの言葉」を呈しながら「禁煙維持への心配」を同時にコメントする矛盾状態であることがわかった。(本研究の詳細 : Isse N, Tachibana Y, Kinoshita M, Fetters M

Evaluating Outcomes of a Social Media-Based Peer and Clinician-Supported Smoking Cessation Program in Preventing Smoking Relapse: Mixed Methods Case Study JMIR Form Res 2021;5(9):e25883)